

○事業所名	いちごみんと			
○保護者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年9月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職チームが協力して、多様な活動を通して個々に寄り添う支援	当事業所では、多様な専門職が子どもたちの様子や課題を丁寧に共有し、全職員で「どうすればその子の興味やニーズに合わせて楽しみながら力を伸ばせるか」を話し合い、療育を柔軟に工夫しています。研修や情報交換で専門性を高め、チーム全体でアイデアを出し合うことで、どの子も安心して挑戦できる環境を作っています。	研修や職員間の意見交換の機会を増やし、新しい知識や手法を取り入れることで、チーム全体で質の高い支援をします。子ども一人ひとりの成長や興味・ニーズに合わせた工夫を重ね、職員同士で実践例や改善アイデアを共有し、より効果的で前向きな療育を目指します。どの子も安心して挑戦し、成長を感じられるようにします。
2	家族と子どもの成長を支える、温かい交流の場	夏祭りや人形劇など、きょうだいやご家族も参加できるイベントを開催し、前もって案内することで安心して参加できるよう工夫しています。保護者同士の茶話会や意見交換の場も設け、子育ての悩みや喜びを共有できる時間を大切にしています。子ども一人ひとりの成長を見守りながら、ご家族も支えられる温かい環境づくりを意識しています。	家族支援行事の発案から開催までを丁寧にを行い、子どもやきょうだい、ご家族が安心して参加できる工夫を重ねていきます。職員同士でアイデアや実践例を共有し、新しい知識や手法を取り入れることで、チーム全体でより質の高い支援を提供できる環境を整え、家庭と子どもたちの成長を支える温かい交流の場をさらに充実させていきます。
3	少人数で丁寧にSST、一人ひとりの社会性と自分らしさを育む学び	当事業所では、少人数で一人ひとりに目が届く環境を整え、SSTを活かした社会性の育成に取り組んでいます。順番を守る、気持ちを伝える、相手に気づくなどのスキルが身につくよう、活動内容や声かけを工夫しています。子どもの興味や発達に合わせて課題や環境を調整し、安心して参加できる雰囲気作りを意識しています。	さらにSSTを活用した活動の幅を広げ、子どもたちが日常の中で自分の考えや気持ちを表現できる機会を増やしていきます。また、活動の工夫や成功体験を職員同士で分析・共有し、より創意工夫のある支援につなげます。一人ひとりが主体的に関わりながら、日々の経験を通して新しい力を身につけられる環境を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所による送迎を行わないこと	送迎は行っていないですが、その分、保護者の方には来所いただき、教材や教室の様子をじっくりご覧いただきながら、職員と丁寧にお子様の状況を共有する時間を大切にしています。こうして、お子様の様子をタイムリーに共通理解できることも、この環境の特徴です。送迎を行っていないことをは弱みではなく強みと考えています。	送迎を行わないことで、保護者の方と毎回直接お会いでき、小さなことでも相談しやすくなります。療育時間中に職員が抜けることがなく、子どもも保護者も安心です。子ども一人ひとりの様子や課題を丁寧に共有し、専門的な療育に専念できる環境をつくることで、さらに活動の質をさらに高め、対話や支援を充実させていきます。
2	限られた曜日での充実した支援	多くのご家庭が療育を優先して通ってくださっていますが、放課後等デイサービスは利用できる曜日が限られているため、学校や家庭行事と重なることがあり、スケジュールの調整をして通所することがあります。	限られた曜日の療育ですが、子どもたちやご家庭に喜んでいただく機会が多く、殆どのご家庭が長く通っていただいています。限られた時間を活かすため、活動内容の工夫やご家庭との情報共有を充実させ、子ども一人ひとりの発達や興味に合わせた課題設定に取り組みます。今後もこうした工夫を重ね、価値ある支援を届けられるよう努めます。
3			

事業所名

いちごみんと

公表日

2026年1月31日

利用児童数

10

回収数

10

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	0	0	1	長年通っていて、広くてのびのび活動できる安心した空間。	スペースを有効活用しながら、活動ごとに最適な配置を工夫し安全性を高めていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	0	0	1	手厚い支援と思う。 先生の人数が多いので安心できる。	職員配置の充実を維持し、安心して通所できる体制を今後も継続・強化していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	0	0	0		段差のない教室で、空間の構造化に継続して取り組み、子どもの自立につなげていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	0	0	0		衛生管理を継続しつつ、活動内容に合わせた教室の使い方を今後も見直していく。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	0	0	1		子どもの特性を丁寧に分析し、専門的視点で課題に応じた支援を積み重ね成長を支えていく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	0	0	0		公表している内容を基に日々の療育を実践し、専門性を意識した支援を継続している。今後も充実を図っていく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10	0	0	0		日々の療育の積み重ねを客観的に整理し、課題と強みを明確にした計画づくりを充実させていく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	0	0	0		今後も、実践の振り返りと評価をより丁寧にを行い、支援の根拠や達成度を可視化することで、より実効性の高い計画へと発展させていく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0		今後も、支援計画をみんなで見直し合い、子どもの気持ちに寄り添いながら温かい関わりをさらに深めていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	0	0	0		多様なプログラムを展開し、SSTを様々な形で取り入れ、子どもが主体的に活動できる工夫を今後も充実させていく。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	2	2	3	必要ないと思う。(複数意見)	併行通学での地域交流を大切にし、事業所では安心して学べる療育を充実させる。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0		丁寧な説明と質問への対応は、良い評価をいただいているので、質問については職員で共通して、対応力を高めていく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0		丁寧に説明し、信頼関係を築いている。今後は説明後の確認や本人の思いの反映をさらに大切にしていける。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	0	0	0		今後も、家庭での関わり方や不安を共に学び、保護者が「ひとりではない」と感じられるよう寄り添い続ける。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10	0	0	0		保護者との対話機会を大切にし信頼関係を深めながら、情報共有を充実させ、成長や健康の変化を丁寧に伝えていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	0	0	0		成長を語り合える関係を大切にしている。今後は助言をより具体的にし、継続的な支援につなげていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	0	0	0		温かい関わりを大切にし共感的で丁寧な支援を継続していく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	0	0	0		保護者やきょうだいが共に楽しめる交流の場を大切にし、参加できないご家庭にも配慮しながら支援を続けていく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	0	0	0		相談や申入れに迅速かつ丁寧に応じ安心して話せる体制を今後も整えていく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	0	0		一人ひとりの状況に配慮し安心してやり取りできる情報伝達をこれからも大切にしていける。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	7	1	0	2		今後も、通信やホームページ、SNSを通じて、分かりやすく丁寧に継続して発信していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	0	0	0		適切に整理・保管し意識も共有している。定期点検で管理を強化していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	0	0	0		契約時に丁寧にお知らせして、通信でも分かりやすく伝えながら、6月と12月の定期的な訓練を続けていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	0	0	0		避難・救出訓練を定期的に実施し、振り返りを通して安全体制を強化していく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0		安全確保の取組を継続して周知し、訓練の振り返りを重ねながら安心できる支援体制を整えていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	1	0	0		日常的な安全点検と声を大切にし、信頼につながる情報共有を行う。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0		安心して通所できる環境づくりを継続し、楽しく通える環境を整え、安定した通所リズムの確立を図る。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	0	0		子どもの思いに寄り添い、無理のない通所支援を行いながら、生活リズムの定着を目指していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	0	0	0		子どもの小さな変化を大切に受け止め、可能性を広げる支援の充実に取り組む。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		いちごみんと		公表日		
				2026年1月31日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	活動内容に応じて机や棚の配置を随時見直し、動線を確保しながら安全に配慮した定員で空間を有効活用している。	利用人数や活動内容の変化を確認しながら、現在の環境水準を維持し安全確保を継続する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7	0	常勤職員を中心に複数体制を整え、日々のミーティングで子どもの様子や課題を共有しながら支援している。	子どもの状態変化に応じた情報共有を継続し、配置バランスを適切に保つ。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	視覚支援や表示物を活用し、活動の見通しが持てる構造化空間を整え、安心して過ごせる環境を確保している。	定期的に環境を振り返り、理解しやすい空間づくりを維持する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日の清掃・消毒を徹底し、活動内容に応じて配置を調整しながら衛生的で快適な環境を整えている。	感染状況や季節変化を踏まえ、現在の衛生管理体制を継続する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	個別に落ち着けるスペースを確保し、子どもの意思を尊重しながら安心して選択できる環境を整備している。	利用状況を確認しながら、使いやすい空間配置を維持する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	全職員が目標設定と振り返りに参加し、PDCAを意識した業務改善に取り組んでいる。	振り返り内容を共有し、改善意識を維持する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者評価の結果を会議で共有し、改善点を整理して支援内容の見直しに反映している。	評価結果の共有を継続し、小さな改善を積み重ねる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	職員会議で率直な意見交換を行い、実行可能な内容から順次改善に取り組んでいる。	意見交換の機会を維持し、現実的な改善を続ける。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7	外部助言や保護者アンケートを活用し、客観的視点を取り入れながら支援の質向上を図っている。	外部意見の活用を継続し、実践へ反映させる取組を続ける。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	内部研修を計画的に実施し、外部研修参加者の学びを共有することで支援力向上を図っている。	研修内容を日々の支援に反映させる体制を維持する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	支援プログラムを作成・公表し、活動のねらいを職員間で共有しながら支援に活用している。	支援プログラムを職員間で丁寧に共有し、見直しを重ねながら確かな支援につなげていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	アセスメント内容を職員で共有し、思いや願いを大切にしながらニーズを踏まえた支援計画を作成している。	評価方法を確認しながら現在の方法を継続する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	児童発達支援管理責任者を中心に職員間で十分に協議を重ね、お子様にとって最も望ましい支援となるよう計画を作成している。	検討体制を維持し、多角的視点を意識していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	児童発達支援計画を全職員で確認し、共通理解のもとで一貫した支援の実施に努めている。	今後も共有体制を維持し、計画との整合性を保つ。子どもの気持ちに寄り添いながら温かい支援をさらに深めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	改訂を重ねたアセスメントシートを活用し、観察記録と合わせて多面的に評価している。	評価基準の確認を継続する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	支援計画は職員全員で常に確認し、子ども一人ひとりのねらいを把握したうえで支援を行っている。計画内容は日々のミーティングで共有し、変更時も速やかに周知して一貫性を保っている。また、根拠が分かる具体的な支援を丁寧に実施している。	支援内容の一貫性を維持していく。今後も振り返りを重ね、安定した支援の継続に努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	活動リーダーが提案し、職員間で協議しながら子どもの状況に応じた活動を立案している。	話し合いの機会をさらに増やしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	子どもの興味や発達段階を踏まえ、活動内容や進め方を随時見直している。	全職員が工夫し、子どもが興味を持てるように活動プログラムの内容や進め方を工夫しているき、活動の固定化を防いでいく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	一人ひとりの状況を把握しスモールステップを大切にしながら、個別と集団活動を組み合わせ放課後等デイサービス計画に合わせた支援を行っている。	一人ひとりの発達に応じた活動バランスを確認していき、適切な支援を継続する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	支援前に必ず打合せを行い、その日の活動内容や役割分担を確認し、統一した支援が行える体制を整えている。	打合せ内容を簡潔に整理し、引き続きチームで連携した支援体制を維持する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	支援終了後に振り返りの時間を設け、子どもの変化や課題、対応の工夫を共有し次回支援に活かしている。	振り返り内容を記録に反映し、共有の質を保ちながら継続する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	日々の支援内容や子どもの様子を記録し、経過確認や保護者対応、支援改善に活用している。	記録の具体性を意識しながら、現在の記録体制を継続する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	定期的にモニタリングを実施し、支援経過を確認した上で必要に応じて計画を見直している。	保護者意見も踏まえながら、現在の見直し体制を維持する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	ガイドラインの4つの基本活動を意識し、活動を組み合わせ多面的な支援を実施している。	活動のねらいを再確認しながら、現在の支援構成を継続する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	活動選択や役割選択の場面を設け、子どもが自ら決める経験を積めるよう支援している。	自己決定の機会を維持し、成功体験を積み重ねられる支援を続ける。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	児発管が中心となり、サービス担当者会議に参加し子どもの状況を共有している。	関係機関との連携体制を維持し、必要な情報共有を継続する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	電話連絡や訪問等を通じ、医療・学校・福祉機関と連携し支援方針を共有している。	現在の連携方法を継続し、情報共有の機会を大切にする。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	学校送迎は行っていないが、必要に応じて情報共有や連絡調整を行い、許可や要請があればオープンスクールなどに参加している。	保護者様からの学校連携の希望は少ないが、今後も個人情報を守りつつ、必要に応じて学校と連携し協力していく努力を継続している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	就学前に利用していた園や事業所と必要に応じて情報共有を行い、相互理解に努めている。	移行時の情報整理を継続し、支援のつながりを保つ。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0	終了時等には支援経過をまとめた資料を作成し、次の事業所へ情報提供している。	移行時の説明体制を維持し、円滑な引き継ぎを行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	児童発達支援センターと連携し、助言や研修機会を活用して支援力向上を図っている。	現在の連携関係を維持し、必要時に助言を受けられる体制を保つ。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	地域交流の機会を設け、他児との関わりや社会性の育成を意識した活動を行っている。	交流機会を無理のない範囲で継続し、地域との関係を保つ。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	要請や必要が生じた際に協議会等へ参加し、情報共有や連絡調整を行っている。	積極的な参加体制を整えていき、得た情報を支援に活かす。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時や面談を通して日々の様子を共有し、発達状況や課題の共通理解を図っている。	日常的な情報共有を継続し、信頼関係の維持に努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	保護者学習会や家族支援の機会を設け、家庭での対応力向上を支援している。	参加しやすい形を検討しながら、現在の支援体制を維持する。保護者の意見を反映させながら継続的な改善と質の向上に努めていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	契約時に運営規程や負担額等を説明し、質問には個別に対応している。	説明内容を定期確認し、分かりやすい説明を維持する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	これまで通り、お子さまの気持ちや様子を丁寧にくみ取りながら、保護者の意見や希望も尊重し、面談では配慮ある対応を心がける。	意向確認の機会を継続し、計画との整合性を保つ。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	計画内容を提示し説明した上で同意を得ており、必要時には補足説明も行っている。	説明機会を確保し、理解を得られる体制を維持する。面談時は説明後の質問時間を十分に確保し、より分かりやすい言葉で伝えていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	子育てや発達に関する相談に応じ、内容を職員間で共有し支援に活かしている。	相談対応体制を維持し、必要時に適切な助言を行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	保護者会やきょうだい行事を実施し、交流機会を確保している。	役割分担を行いながら、現在の交流機会を継続する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情対応体制を整備し、受付から対応までの流れを明確にして迅速に対応している。	体制を維持し、相談しやすい環境づくりを続ける。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	通信やホームページで活動内容や行事予定を発信し、情報公開に努めている。	更新頻度を意識しながら、無理のない発信を継続する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報には施錠保管とアクセス管理を徹底し、取扱いに注意している。	管理手順を確認しながら現在の体制を維持する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	子どもの特性や理解度に配慮し、視覚支援や具体的表現で情報伝達を行っている。	状況に応じた伝達方法を継続し、理解促進を図る。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	地域ボランティアとの交流を通じ、地域に開かれた事業運営を行っている。	地域との関係を維持し、交流機会を継続する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	事故・防災・感染症等の各種マニュアルを整備し、想定訓練を実施している。	マニュアル内容を確認し、訓練体制を維持する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCPを策定し、非常時を想定した避難や救出訓練を計画的に実施している。	訓練内容を振り返りながら、継続実施する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	服薬状況や発作歴などを事前に確認し、変更時は速やかに職員間で共有している。	情報更新を継続し、安全管理体制を維持する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	研修の通り命を守る重要事項と認識し、情報を共有して医師の指示に基づき対応している。	医師の指示がある場合は迅速に職員が共通理解して、手順確認を継続し、安全な対応を維持する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画を策定し、定期的な避難訓練や安全研修を実施している。	訓練実施を継続し、安全意識の維持を図る。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	通信や連絡帳で、安全計画や訓練の内容を写真なども活用して丁寧にご家庭に伝えるようにしている。	周知方法を維持し、家庭との情報共有を継続する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	全職員が臨場感を持って考えられる研修を行い、ヒヤリハット事例を共有して再発防止に取り組んでいる。	事例共有を継続し、未然防止意識を保つ。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止研修を行い、「絶対に虐待をしない」基盤を共有し、子どもを全員で守る信念を持って対応している。	研修機会を確保し、意識の維持に努める。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	職員は身体拘束を行わないという共通理解のもと、子どもの人権を大切にしており、研修でも確認している。	方針共有を継続し、適切な支援姿勢を維持する。